

# プロジェクトマネジメント学会四国支部報告

板倉 宏昭\*

Activity Report of Shikoku Branch of The Society of Project Management

Hiroaki Itakura

## 1. 四国支部年次研究大会の報告

プロジェクトマネジメント学会四国支部では、2月29日（金）、香川大学幸町キャンパスにおいて、四国支部総会に引き続き、第6回年次研究大会を開催いたしました。

### 四国支部年次研究大会

日時：2月29日（金）

場所：香川大学幸町キャンパス研究交流棟  
研究交流スペース

共催：香川大学大学院地域マネジメント研究科  
香川大学工学部  
香川大学地域開発共同研究センター  
技術交流協力会

後援：香川県，四国経済産業局，特定非営利活動  
法人ITコーディネーター協会

会委員長の岡田様にご講演くださった他、総務委員会委員長の関先生、論文審査・編集委員会副委員長の島田様にもお越しいただきました。

四国支部の会員の方には、40名と大勢の方に参加していただきました。

### 招待講演：

「失敗プロジェクトの分析～未然防止に活かすことの難しさ～」

岡田清久氏（PM学会教育・出版委員会  
委員長・日本電気㈱）

各企業（ないしは組織）は、失敗プロジェクトの原因分析を行い、得られた教訓を活かす工夫をしている。しかしながら、必ずしも、単に原因分析しさえすれば、即、失敗プロジェクトを減らすことに繋がるということでもない。それはなぜか？実際の失敗事例を分析した結果を踏まえて、その“なぜ”に答える。



年次研究大会の様子



岡田氏による招待講演

年次研究大会には、本部からも教育・出版委員

講演：

「意思決定のための手法」

小山健氏（徳島文理大学）

山西康弘氏（徳島文理大学）

多田哲生氏（徳島文理大学）

プロジェクトマネジメントでは、事実・将来予測などをベースに不確定要素の存在条件のもとで、多くの意思決定がなされる。本発表では、事実関係把握のための手法、将来予測のためのフェジイ推論などの手法、各種情報量を利用した判断手法について述べ、判断情報量の提案をする。



小山氏による発表

「TOCによる経営改革」

神原孝行氏（株）五星

（株）五星では現在、事業、組織、経営マネジメント及び経営資源の四つの切り口で三カ年の経営改革を推進しており、その中核を担うのがCCPMの導入とTOC思考プロセスによる生産性の改善である。

「設計手法の考察」

大和田昭邦氏（株ダイナックス高松）

ITシステム設計の手法は、上流から下流の設計書としてERD、DMM、DFD、EEM-1、CFA-1、IOM、等一連の設計書を作る方法論やUML（オブジェクト設計法）等が標準的な体系としてある。これらは相当の頭脳をもった人たちが考

えたもので、設計書の手法については、本当に多岐に渡っていると思う。この設計書はあくまでも状態遷移表で表現することにこだわり、プログラミングの際にはlex, yaccの適用を前提としている。

「中小規模システム開発におけるプロジェクト管理プロセスの改善」

上野豊氏（株STNet）

STNetでは、平成16年度から品質、生産性の向上をめざし、CMMIをベースにプロジェクト管理プロセスの改善を実施してきた。その時の経験を、特に中小規模システム開発におけるプロセス改善のポイントとしてまとめた。

「イノベーション創出のための方法論」

板倉宏昭（香川大学大学院地域マネジメント研究科）

藤原善丞氏（テキサス大学オースティン校）

日本経済の活性化の鍵として、新事業創出があげられている。こうした新事業創出のためには、技術的シーズだけでなく、技術的シーズを評価し商業化を担うことが不可欠である。本研究は、米国テキサス大学オースチン校のビジネススクールから発展したテキサス大学IC<sup>2</sup>（研究所とMSSTC（科学技術商業化大学院プログラム）の協力を得て、技術商業化の方法論の研究を行う。

「大手製造業における地方組織コミットメントの実証分析」

筒井俊男氏（香川大学大学院地域マネジメント研究科・三菱電機株）

大手製造業における組織コミットメントとは、会社全体への組織コミットメントと所属部署への組織コミットメントに大きな違いがあり、とりわけ本社以外の販売拠点や製造拠点といった地方組織で働く従業員のコミットメント特性について実証を行ったものである。地方組織におけるコミットメント特性を示し、また所属地域と出身地域という異なる2つの地域コミットメントが組織コミットメントに与える影響を示した。

「四国の会社組織における組織市民行動の業種比較についてー組織コミットメントと見直しを中心とした実証研究を通じてー」  
多田浩士氏（香川大学大学院地域マネジメント研究科・㈱百十四銀行）

組織市民行動とは、役割外行動として位置づけられるが、その行動は職場の潤滑油的存在として組織の効率的機能を促進し、結果として職務業績に結びつくものである。組織市民行動とその規定要因に注目し、四国の民間企業と公務員との業種による違いを明らかにすることで、2業種におけるより効率的なマネジメントのプロセスを提唱する。

年次研究大会は、定国支部長の挨拶に続き、岡田様による招待講演、四国支部会員による7件の発表がありました。講演・発表後の質疑応答では活発な意見交換が行われ、充実したものとなりました。



定国支部長の挨拶

年次研究大会終了後は会場を移して、懇親会が開かれ、ここでも活発な意見交換をすることができました。懇親会では、関先生にご挨拶いただき、「讃岐うどんのように腰の強い、元気な四国支部でいて下さい」とのお言葉をいただきました。

## 2. 今年度の活動予定

今年度は、昨年度に引き続き、研究会の活発化に

重点を置き活動を展開する計画です。年次大会に続き、昨年同様、年4回の研究会を実施する予定です。

また、ITC団体（ITC四国、ITCかがわ）やISOネットワーク、香川県情報システムサービス協議会、香川大学地域共同研究センターなどの団体との交流を深め、幅広い方に研究会への参加を呼び掛け、新規会員の開拓に努めたいと考えています。

更に、PMの基礎的な手法の研修に加えて、四国地域の実践的な課題、例えば、街づくり、地域振興、企業の経営課題等にプロジェクトマネジメントを適用することで、活動を一層活性化していきたいと考えています。

四国支部お問い合わせ先

事務局：香川大学大学院地域マネジメント研究科  
板倉研究室

〒760-8523 香川県高松市幸町2-1

TEL&FAX 087-832-1872

電子メール：nakayama@italabo.com

ホームページ：

<http://www.italabo.com/PMshikoku/>

## 3. お礼

最後になりましたが、年次研究大会の運営に関し、会員サービス委員会の磯様（NTTデータ）をはじめ本部の方々には、多大なご支援をいただきました。厚くお礼申し上げます。

---

\* 香川大学大学院地域マネジメント研究科